



新潟市農業構想
―食と花の都を目指して―

新潟市



新潟市 農業構想

食と花の都を目指して

新潟市
平成18年4月

はじめに

新潟市は、平成17年の広域合併により人口81万人の都市となり、平成19年4月の本州日本海側初の政令指定都市移行に向けて準備を進めています。合併市町村のそれぞれの地域で暮らしてきた人同士が支え合い、学び合って、「共に育つ」ことが、この政令市の大きな理念のひとつです。

江戸時代の初め、蒲原平野には多くの村ができ、そこで生産された米や産物は、信濃川や阿賀野川を通して新潟湊に集められ、全国へ積み出されました。

江戸時代の新潟湊は、現在の合併14市町村の区域の大半を占める蒲原の田園に支えられ、北前船の最大寄港地に発展しました。このように、田園と湊町は昔から支え合う関係にありましたが、このたびの大合併で一体化し、政令市に向けて新たな関係が始まりました。

本市が目指す政令市は、わが国にかつてない規模の農業の基盤を持つ田園型の大都市です。この農業の持つ力や多面的機能を活かして、高次都市機能と田園のゆったり感が共存する、新しいタイプの政令市——田園型政令市——を創ります。

この「田園型政令市」を支える農業・農村の振興方策を示すため、新潟市農業構想を策定いたしました。

本構想では、「食と花の都 ～日本一豊かでにぎわいのある大農業都市～」を将来像に掲げました。今後、将来像の実現に向けて各施策に取り組み、農業者と消費者が「食と花」を通じて互いに恵み合い、協働し、本市の農業・農村が発展するよう努めてまいります。

最後に、この構想の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました農業者や市民の皆さま、終始熱心にご討議いただきました（仮称）新市農業構想策定会議委員の皆さまをはじめ関係各位に、心から感謝申し上げますとともに、この構想の実現に向けて、皆さまの一層のご支援とご協力をお願いいたします。



平成18年4月

新潟市長 篠田 昭

目次

■ 新潟市農業構想の読み方

■ 第1章 田園型政令市の農業構想の考え方 …………… 2

■ 第2章 大農業都市の農業・農村の現状と役割

1 農業の現状 …………… 6

2 農村の現状 …………… 9

3 田園型政令市における農業・農村の役割（位置づけ） …………… 11

4 新潟市の農業・農村の課題 …………… 14

■ 第3章 田園型政令市の農業・農村の将来像

1 農業・農村の将来像 …………… 18

2 構想の目標 …………… 20

■ 第4章 構想の実現方策

1 強い農業・農村をつくる基本的な施策の展開 …………… 25

1-1 産業として魅力のある農業の確立 …………… 26

1-2 地域として魅力のある集落環境の形成 …………… 43

1-3 田園型政令市の豊かさとにぎわいの形成 …………… 52

2 生産環境施策の展開 …………… 65

3 土地利用の展開 …………… 77

4 地域別の展開 …………… 85

■ 第5章 構想の推進体制

- 1 構想推進に向け各主体に期待される役割 100
- 2 本市農業行政の組織のあり方 105
- 3 推進体制と進行管理 106

新潟市の農業・農村の現状

- 1 農業・農村の現状 110
- 2 農業・農村の多面的機能 128
- 3 農業者・市民の意向 130

策定会議の経過 137